

ボックスゾゴ[®] 皮下注用0.4mg 皮下注用0.56mg 皮下注用1.2mg による
治療を受ける患者さんとそのご家族へ

ボックスゾゴ[®] 自己注射マニュアル



はじめに

軟骨無形成症治療薬であるボックスゾゴ®皮下注用0.4mg／皮下注用0.56mg／皮下注用1.2mg(以下、ボックスゾゴ®)[一般名:ボソリチド(遺伝子組換え)]は、ご自宅で皮下注射して使用する薬剤です。ボックスゾゴ®による治療は、患者さんやご家族、サポートされる方が、医師などの専門家から十分なトレーニングを受けた後にスタートします。

この冊子では、ご自宅での皮下注射をサポートするために、ボックスゾゴ®の詳しい投与手順と投与時の注意点をご紹介します。この冊子をよく読み、内容を十分に理解してから、ご自宅で自己注射を実施してください。

ウェブサイト「ボックスゾゴ フレンズ」では、ご自宅で行うボックスゾゴ®治療をサポートするために、さまざまな情報やツールをご提供しています。皮下注射の方法を詳細に示した動画が見られるほか、マイページでは毎日の投与や成長を記録することができます。この冊子と併せてご利用ください。

ボックスゾゴ®による治療を受ける

患者さんとそのご家族へ



ボックスゾゴ フレンズ

<https://voxzogo-friends.jp>



監修：医誠会国際総合病院 小児科 部長

北岡 太一 先生



目次



投与前の 注意点

ボックスゾゴ®による治療を始める前に	4
ボックスゾゴ®投与の大まかな流れ	6
注射に必要なもの	7
ボックスゾゴ®の保管方法	8

注射の準備

注射の準備	9
-------	---

薬液の準備

薬液の準備	12
-------	----

薬液の投与

薬液の投与	19
皮下注射を行う部位、お子さんの抱き方	24

器具の廃棄

使用した器具等の廃棄	28
------------	----

投与後の 注意点

注射の記録	31
ボックスゾゴ®の副作用	32
ボックスゾゴ®投与後の注意点	33
投与についてのよくある質問	34

患者さんサポート プログラムについて

ボックスゾゴ フレンズのご案内	35
-----------------	----



ボックスゾゴ®による治療を始める前に

■ 在宅自己注射についてのトレーニング

ご自宅でのボックスゾゴ®の自己注射は、患者さんやご家族、サポートされる方が医師などの専門家から十分なトレーニングを受けた後に実施します。実施前に注射方法の説明書(この冊子および使用手順書)を必ず読んでください。

■ ボックスゾゴ®の投与回数・投与量

ボックスゾゴ®は1日1回、2歳以上であれば体重1kgあたり15 μ g、2歳未満であれば体重1kgあたり30 μ gを皮下注射します。投与量は患者さんの年齢と体重によって異なります。バイアルと投与量は医師によって定められますので、医師の指示に従ってください。

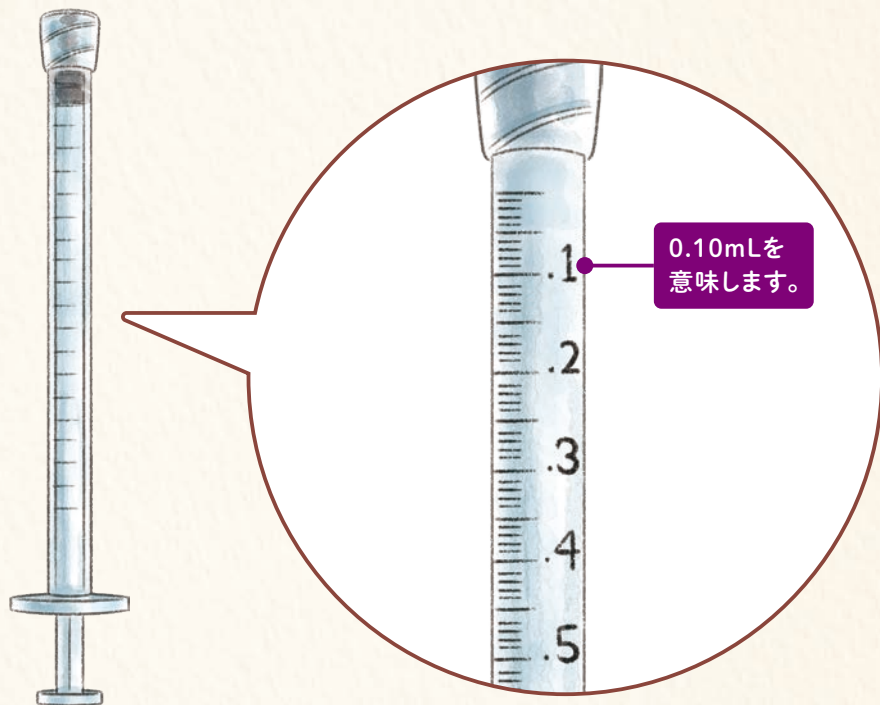
あなたの投与量 | 担当医から指示されたボックスゾゴ®の投与量を記入します。

日 付		体 重	バイアルの種類	投与量
初回投与	年		0.4mg 0.56mg 1.2mg	
月	日	kg		mL
	年		0.4mg 0.56mg 1.2mg	
月	日	kg		mL
	年		0.4mg 0.56mg 1.2mg	
月	日	kg		mL
	年		0.4mg 0.56mg 1.2mg	
月	日	kg		mL
	年		0.4mg 0.56mg 1.2mg	
月	日	kg		mL



担当医から指示された投与量が、投与用シリンジのどの目盛りにあたるかを、投与を始める前に必ず確認してください。

指示された投与量の目盛りに印を付けてください。



ボックスゾゴ®投与の大まかな流れ

ボックスゾゴ®を皮下注射する際は、次の手順で行います。

大まかな流れ

1

ボックスゾゴ®を受け取り
適切な方法で保管する

- ① 薬剤ボックスと機器ボックス
(インジェクションセット)を医療機関から持ち帰る
- ② 薬剤ボックス(10ページ参照)を
冷蔵庫で保管する

2

必要なものを事前に
そろえて確認する

- ① ボックスゾゴ®と溶解液を室温に戻す
- ② 投与に必要なものをそろえてならべる

3

薬液を準備する

- ① 粉末状のボックスゾゴ®に
溶解液を加えて溶かす
- ② 投与用シリンジに注射針をセットし、
薬液量を調整する

4

薬液を投与する

- ① 注射する体の部位を選ぶ
- ② 皮下注射する

5

使用したものを
廃棄する

以降のページでより詳しい手順や注意点などを解説しています。全体をよく読み、内容を十分に理解してから投与を実施してください。

ボックスゾゴ®の投与手順の詳細は動画でもご覧いただけます。
こちらからボックスゾゴ フレンズにアクセスしてください。



注射に必要なもの



■ 治療開始時に受け取るもの

治療開始時に受け取るキットには投与に必要なものが入っています。



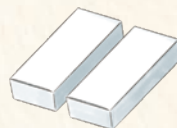
専用保冷バッグ



保冷剤



自己注射準備マット



薬剤ボックスと
機器ボックス
(インジェクションセット)

スターターキット



患者さん用冊子



自己注射
マニュアル



患者さんサポート
プログラムのご案内

- 処方された日数分の薬剤ボックスと機器ボックス(インジェクションセット)が入っています。
- 2回目の診察以降は、空の専用保冷バッグに凍らせた保冷剤を入れて、病院にお持ちください。

ボックスゾゴ®の保管方法

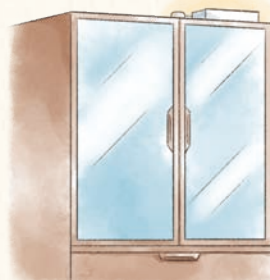
ご自宅に戻ったら、薬剤ボックスを取り出して、箱のまま冷蔵庫(2～8℃)で凍結しないように保管してください。冷蔵庫で保管できない場合や注射するために室温に戻した場合は、冷蔵庫に戻さず、室温で保管して3ヵ月以内に使用してください。

薬剤ボックス以外のものは、直射日光を避け、お子さんの手の届かない場所で保管してください。

薬剤ボックス



それ以外のもの



低血圧を予防するために

- ボックスゾゴ®の投与により、血圧が低下することがあります。
- 血圧低下とそれに関連するめまい、吐き気、疲労、失神^{しっしん}などの症状があらわれるのを防ぐために、ボックスゾゴ®を注射する約30分前に、軽食や、コップ1杯程度の水・牛乳・ジュースなどの飲み物をとるようにしてください。



※ボックスゾゴ®の副作用についての説明(32ページ)をご覧ください。

注射の準備



●ボックスゾゴ®と溶解液を室温に戻す

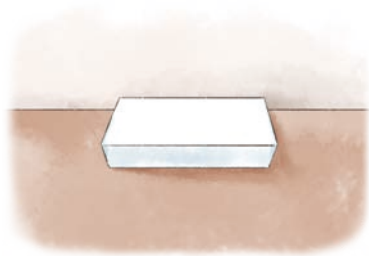
手を洗う



投与の準備を始める前に手をよく洗います。



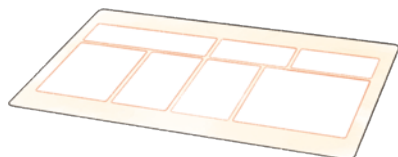
薬剤を室温に戻す



投与の少し前に、薬剤ボックスを冷蔵庫から取り出し、室温に戻します。



準備マットを机の上に置く



投与の準備をする場所に自己注射準備マットをセットします。

※ 準備マットは清潔にしておいてください。

※ 投与の準備は清潔で平らな場所で行ってください。



注射の準備

●薬剤ボックスの種類を確認する

手元にある薬剤ボックス（バイアルと溶解用シリンジ）が、担当医、薬剤師などから指示された種類の薬剤ボックスであることを確認してください

ボックスゾゴ®
皮下注用0.4mg

ボックスゾゴ®
皮下注用0.56mg

ボックスゾゴ®
皮下注用1.2mg



機器ボックス（インジェクションセット）

アルコール綿
（スワバー-M）
※2包同封



溶解アダプター
（ツートック®）



セーフティ
キャップ



投与用
注射針



円型絆創膏



投与用シリンジ



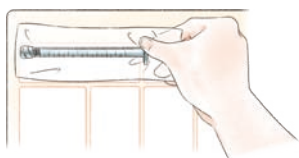
プランジャー

※そのほか、廃棄用袋が入っています。



●投与に必要なものをそろえる

薬剤ボックスと機器ボックス（インジェクションセット）の中身を取り出して、準備マットにならべる



投与に必要なものを準備マットの上にならべます。

廃棄用袋は、廃棄物を入れやすいように口を開けた状態にして、準備マットの外に置きます。



袋から出し、不要なものを廃棄用袋に入れる



投与に必要なものがすぐに使えるように、袋から出しておきます。

※ 袋を開ける際にシリンジの先端や注射針の底など、薬液が通る部分になるべく手が触れないようにします。

そのほかの投与前に注意していただきたいこと

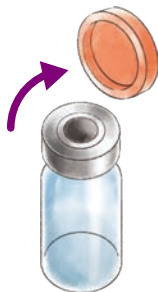
- 薬剤の使用期限を確認し、期限が過ぎたものは使用しないでください。
- 担当医が定めたボックスズゴ®の投与量（患者さんの年齢や体重に基づいて決まります）を確認してください。
- 使用前にはバイアル、溶解用シリンジ、投与用シリンジ、投与用注射針などをよく見て、破損、異物の混入、変色などがいないか確認してください。破損などがあった場合は使用せずに医療機関に連絡してください。
- 体重57kg以上の患者さんではバイアルを2本使用します。



薬液の準備

●粉末状のボックスゾゴ®に溶解液を加えて溶解する

バイアルのキャップを外し、ゴムの部分をアルコール綿で拭く 



バイアルのキャップを爪を使って外し、ゴムの部分をアルコール綿で消毒します。

※消毒後は、ゴムの部分に触れないでください。



バイアルを2本使う場合には、このマークがついた手順を2回くり返してください。使用する投与用シリンジは1本です。



溶解アダプターをバイアルに押し込む 



バイアルを机の上に置いて片手で支えながら、もう一方の手で溶解アダプターを上から“まっすぐ”垂直に押し込みます。

※溶解アダプターを上から“まっすぐ”垂直に押し込まない場合、溶解アダプターが破損し、液漏れが生じたり、溶解液を吸引できなくなったりする可能性があります。

※溶解アダプターはパッケージから取り出した後は清潔ではない場所に置かないでください。

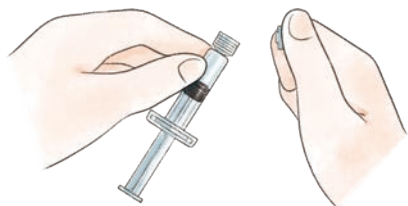
※溶解アダプターの内側にある針に触れないでください。

※最後までしっかりと押し込んだことを確認します。





溶解用シリンジのキャップを外す



溶解用シリンジの先端を利き手で持ち、押し曲げるようにして溶解用シリンジからキャップを外します。溶解用シリンジには溶解液が入っています。

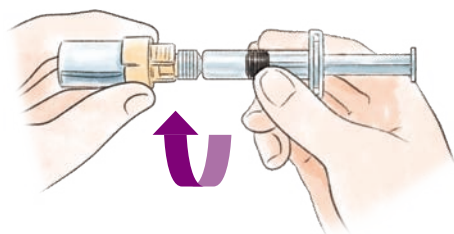
※キャップを外した後は溶解用シリンジの先端に触れないでください。



この部分が離れます。

ここを持つと外すのが容易になります。
小さな窓のような部分で灰色のゴムが見えます。

溶解用シリンジとバイアルを接続する



溶解用シリンジの先端を溶解アダプターに回し入れます（回す方向は時計回り）。

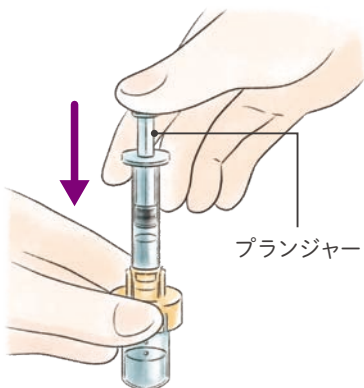
※溶解アダプターと溶解用シリンジの接続部分に触れないようにしてください。

※最後までしっかりはまったことを確認します。

※強くしめすぎないでください。

薬液の準備

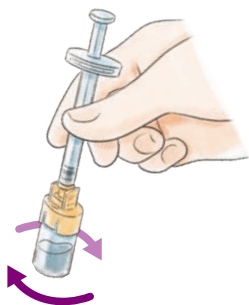
溶解液をバイアルに移す



溶解用シリンジのプランジャーを押して、溶解用シリンジに入っている溶解液をすべてバイアルに移します。

※ 1滴程度なら溶解用シリンジに残っていても問題ありません。

バイアルをゆらして、粉末を完全に溶解させる



溶解用シリンジの本体を持ち(プランジャーには触れずに)、粉末が溶解液に溶けるよう、やさしく円を描くように動かします。

バイアル内の粉末が完全に溶けるまで行います。溶解後の薬液の色は、透明～黄色になります。

※ 激しく振らないでください。

※ 溶解後にはバイアル内の薬液をよく見て、異物や変色がないかを確認し、異物や変色がある場合にはその薬液は使用しないでください。

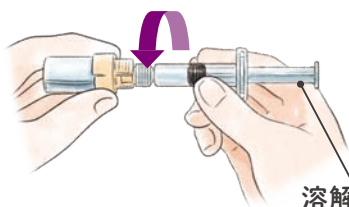
※ 溶解後は、すぐに使用してください。

※ 溶解後3時間以上経過した薬液は廃棄してください。



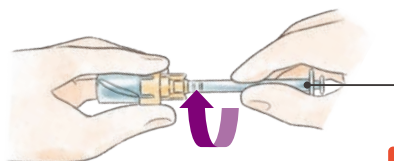
●投与用シリンジに注射針をセットし、薬液量を調整する

投与用シリンジに付け替える



溶解用シリンジ

溶解アダプターから溶解用シリンジを取り外します（回す方向は時計と反対回り）。

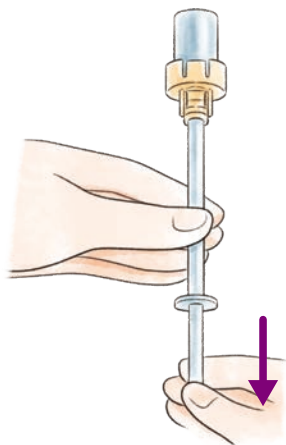


投与用
シリンジ

次に、投与用シリンジを取り付けます（回す方向は時計回り）。



バイアルに入った薬液を投与用シリンジに移す



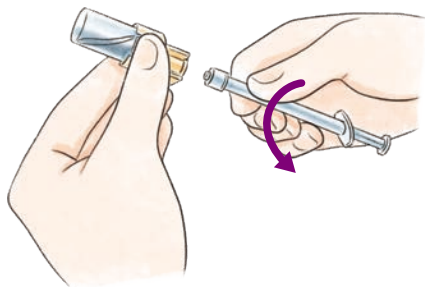
バイアルが上になるように持ち替えて、プランジャーをゆっくり引き、バイアルの中にある薬液から必要な量（投与量よりもやや多め）を投与用シリンジに採取します。

※ バイアルが投与用シリンジの真上にくるように持たないと、投与用シリンジに必要な量の薬液が入らないため、注意してください。



薬液の準備

溶解アダプターから投与用シリンジを外す



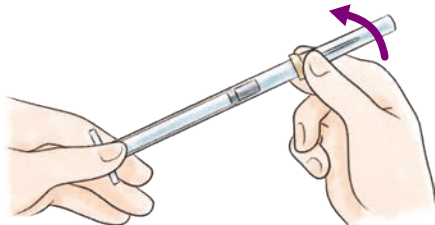
投与用シリンジの本体を回して（時計と反対回り）、溶解アダプターから外します。このときにプランジャーに触れないでください。その後、さらに投与用シリンジ内に空気が少し入る程度にプランジャーを引きます。

※バイアルに残った薬液は廃棄してください。



バイアルを2本使う場合には、このマークがついた手順を2回くり返してください。使用する投与用シリンジは1本です。

投与用シリンジに注射針を取り付ける

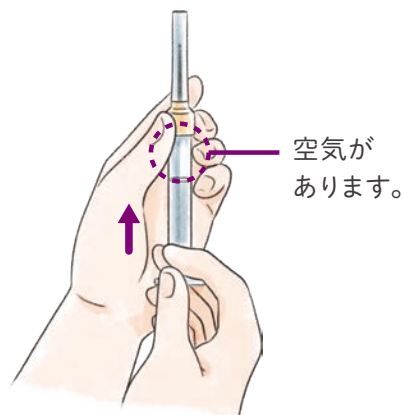


注射針をキャップを付けたまま、投与用シリンジに回しながら取り付けます。

※注射針と投与用シリンジの接続部分に触れないでください。



投与用シリンジ内の空気(気泡)を上を集める



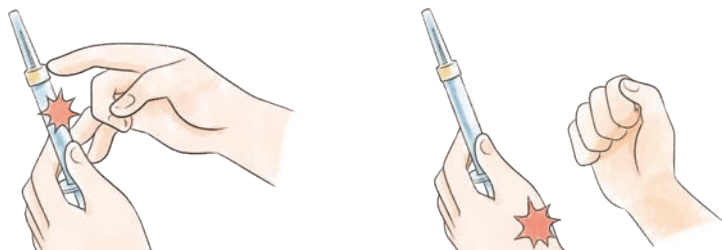
注射針を上にして投与用シリンジを縦に持ちます。

薬液中の空気(気泡)が上部に集まるように投与用シリンジを軽くたたいてください。

集まった空気を押し出します。

※ 小さな気泡が1つか2つ、隅のほうに残ってしまっても問題ありません。

ポイント: 気泡の集め方

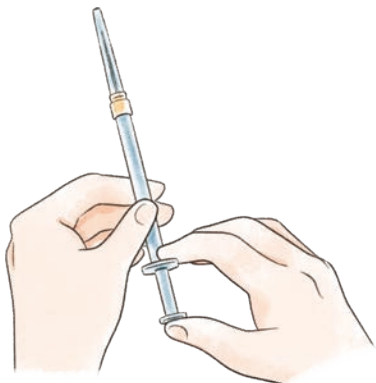


シリンジ内には気泡が残っています。シリンジを指で軽くはじくか、シリンジを持つ手をもう一方の手で軽くたたくことで、気泡を上に移動させることができます。

薬液の準備



投与用シリンジの目盛りを投与量に合わせる



プランジャーの先端にある黒いゴム栓を指示された投与量の目盛りに合わせます。

※必ず適切な投与量に合わせてください。
※押し出された薬液が針先から垂れてキャップ内にたまることがあります、そのままにしておいて問題ありません。

ポイント：目盛りの読み方



※突起の付け根部分で測らないでください。

この線を読みます。

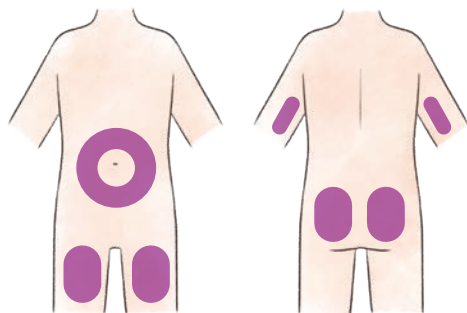
プランジャーの先端の黒いゴム栓の上の線で目盛りを読みます。シリンジにある「.2」は0.20mL、「.3」は0.30mLを表します。例えば0.20mLを投与したい場合には、線を「.2」に合わせます。

薬液の投与



●投与する体の部位を選ぶ

皮下注射に適した体の部位



前面

後面

皮下注射は、皮下の脂肪組織に薬液を注入する注射法です。皮下注射は、皮下脂肪が厚く、血管や神経などから離れている下記の部位に行ってください。

- ・おしり
- ・太ももの前面
- ・おなか
(おへそから少し離れたところ)
- ・上腕部

そのほかの投与の際に注意していただきたいこと

- 服の上から注射しないでください。
- 同じ部位へくり返し注射することは避け、投与ごとに注射部位を変えてください。
- 皮膚に赤み、腫れ、痛み、しこりなどがある部位には注射しないでください。
- 注射の際はお子さんの不意の動きに注意してください。



薬液の投与

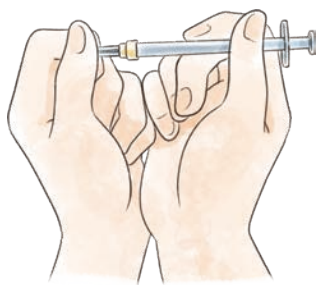
●皮下注射する

使わないものを片付ける

投与用シリンジと注射針、アルコール綿、セーフティキャップは準備マットの上に残します。そのほかは廃棄用袋に入れてしまいます。



注射針のキャップを外す



両手を小指の付け根あたりで合わせた状態で投与用シリンジと注射針のキャップを持ちます。

両手が離れないようにしながら、キャップを少しねじるようにして外します。

※ねじるときに力を入れすぎると、注射針がシリンジから外れることがあるので注意してください。

注意: 両手が離れた状態でキャップを外さないでください。



悪い例

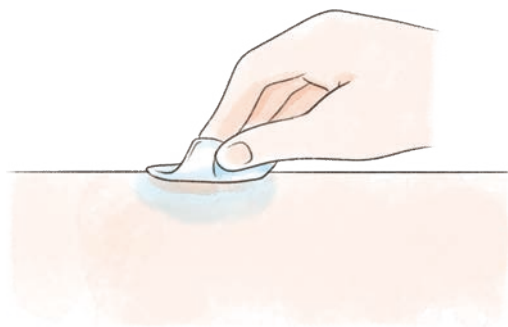


反動で手が元の方向に戻り針が指に刺さることがありますので、注意してください。





注射部位を消毒する



注射する体の部位を
アルコール綿で消毒
します。



注射部位をつまんで持ち上げる



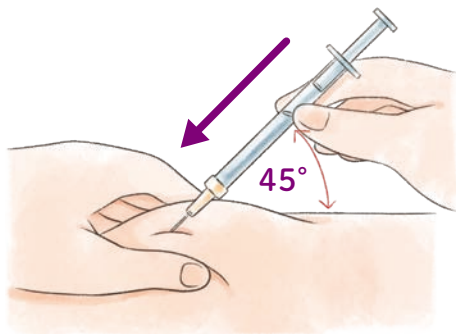
利き手ではないほうの
手で注射部位を軽く
つまみます。

※消毒した部位を触ら
ないようにします。



薬液の投与

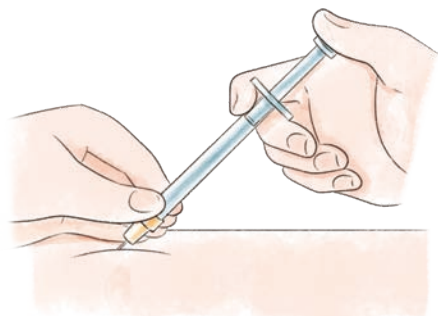
注射針を刺す



利き手で投与用シリンジの本体を持ち、45°の角度を目安に針を刺します。

※注射針を刺す角度や深さは注射部位の皮下脂肪の厚さによって異なるため、詳細は担当医の指示に従ってください。

利き手を投与用シリンジの本体からプランジャーに持ち替える



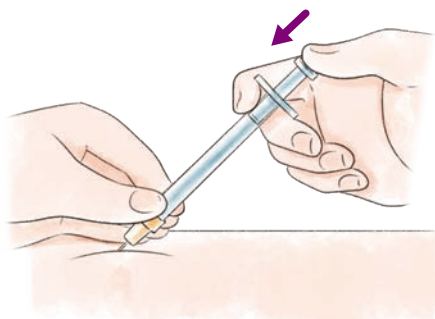
注射部位をつまんでいた手(利き手でないほうの手)で投与用シリンジの本体を持ちます。

利き手は、投与用シリンジの本体からプランジャーに持ち替え、投与の態勢に入ります。

※プランジャーが外に長く出ている場合、投与用シリンジが固定されていないと、利き手を投与の位置に移動できないため、利き手でないほうの手で投与用シリンジを支える必要があります。



投与用シリンジのプランジャーをゆっくり押す



利き手で、投与用シリンジのプランジャーをゆっくり押します。プランジャーを最後まで押し込んだら、すぐに注射針を抜きます。

※刺した部位が痛みますので、投与後は、注射針を刺したままにしたり、動かしたりしないでください。

注射部位に絆創膏を貼り、お子さんを安全な場所に移す

投与用シリンジをそのままいったん机の上に置き、お子さんの注射部位に絆創膏を貼ります。その後、お子さんをベビーベッドなどの安全な場所に移します。

※注射部位が出血している場合はアルコール綿で押さえて出血を止めてから、絆創膏を貼ってください。

※注射部位をこすらないでください。

使用した器具等の廃棄については28～30ページをご覧ください。

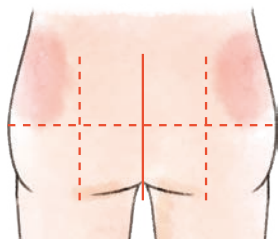
投与後に注意していただきたいこと

- めまい、吐き気、疲労、失神など、血圧低下の兆候がないか、ご確認ください。これらの症状があらわれた場合は、担当医または医療従事者に速やかに連絡してください。そのうえで、お子さんを寝かせて、足を頭より高くした状態にします。

皮下注射を行う部位、お子さんの抱き方

●おしりの場合

皮下注射を行うおしりの部位



片側のおしりを四等分したうちの、
外側の上の方に皮下注射します。

おしりに注射する場合のお子さんの抱き方の例

幼児の場合



お子さんを大人の膝の上で横抱きにして、大人の太ももでお子さんの脚を挟みます。

乳児の場合



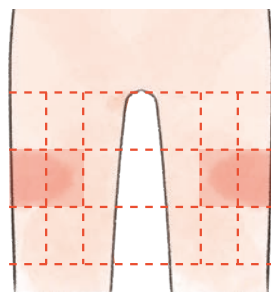
お子さんの背中と脚を押さえます。お子さんが不意に動くことがありますので注意してください。活発に動き、力が強くなる幼児以降では、ほかの抱き方をご検討ください。

患者さん本人が自己投与を行う場合は、
太ももまたはおなかに皮下注射してください。



●太ももの場合

皮下注射を行う太ももの部位



脚の付け根と膝の間あたりが
皮下注射に適しています。内もも
には注射しないでください。

外側

内側

外側

太ももに注射する場合のお子さんの抱き方の例

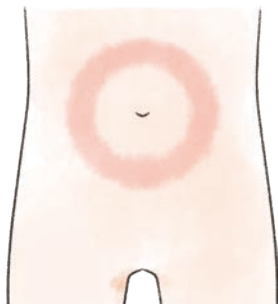


お子さんを大人の膝の上で横抱きにして、
大人の太ももでお子さんの足を挟みます。
お子さんの腕は大人の手で押さえます。

皮下注射を行う部位、お子さんの抱き方

●おなかの場合

皮下注射を行うおなかの部位



おへそから少し離れた場所に注射してください。

おなかに注射する場合のお子さんの抱き方の例



お子さんを大人の膝の上に正面を向いて座らせ、大人の太ももでお子さんの足を挟みます。お子さんの腕は顔の近くまで上げて、大人の手で押さえます。

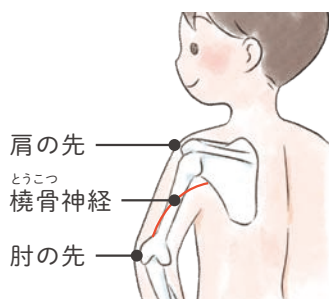


患者さん本人が自己投与を行う場合は、
太ももまたはおなかに皮下注射してください。

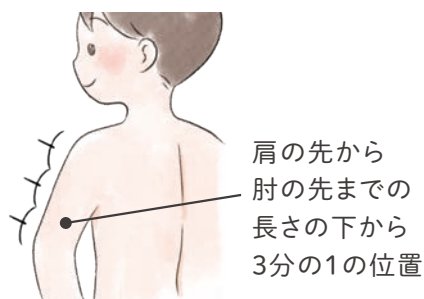


●上腕部(二の腕)の場合

皮下注射を行う上腕の部位



上腕部の皮下注射では、
橈骨神経に注意する必要
があります。



神経が避けられる、上腕(二の腕)の裏
側の下から3分の1の位置に皮下注射
します。

上腕に注射する場合のお子さんの抱き方の例

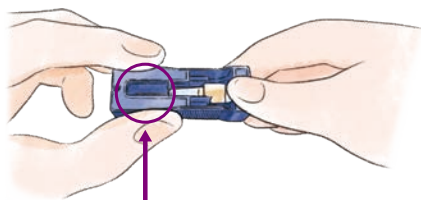


お子さんを大人の膝の上で横抱きにして、
大人の太ももでお子さんの脚を挟みます。
お子さんの首のあたりと腕を大人の手で
押さえます。

使用した器具等の廃棄

●セーフティキャップをはめる

セーフティキャップを机の上に置き、
投与用シリンジと注射針を上から押し込む



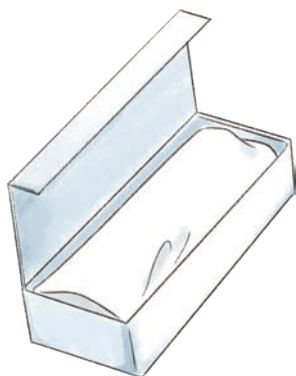
針の先

投与用シリンジと注射針をセーフティキャップの上に置きます。
セーフティキャップにうまくはまる位置で、上からカチッと音が鳴るまで押し込みます。

※投与用シリンジと注射針がセーフティキャップにしっかりとハマっていることを確認してください。



機器ボックス(インジェクションセット)に入れて保管する



セーフティキャップが付いた状態の投与用シリンジと注射針を、廃棄用袋で包み、機器ボックス(インジェクションセット)の空箱に入れます。

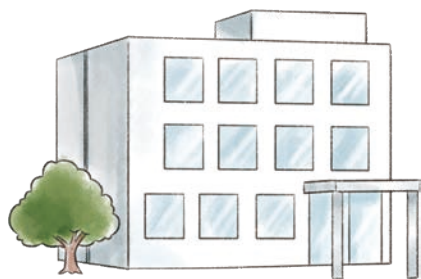
お子さんの手の届かないところで保管します。

※1つの空箱に、複数の投与用シリンジと注射針を入れてかまいません。



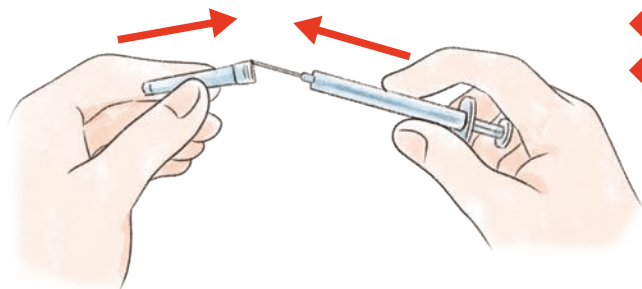


医療機関に持参する



使用済みの投与用シリンジと注射針を入れた箱は、次の受診日に病院に持参します。

注意: はじめに付属していたキャップに再度入れ直すこと（リキャップ）はしないでください。



注射針をはじめに付属していたキャップに再度入れ直すことは危険ですので、絶対にしないでください。使用済みの針を誤って自分の指に刺してしまう可能性があり、感染の原因になります。使用済みの注射針は、ほかのものに絶対に触れないようにして廃棄することが重要です。

使用した器具等の廃棄

●そのほかの廃棄物の廃棄方法

家庭ごみとして廃棄する



使用済みの投与用シリンジと注射針以外のものは、家庭ごみとして廃棄します。

※使用済みの投与用シリンジと注射針は、家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。



注射の記録



注射後は、その日の注射部位と注射した時刻を記録します。

ボックスゾゴ フレンズには「わたしのきろく」という注射の記録を簡単に行える機能があります。「わたしのきろく」に入力しておけば、前の日にどこに注射したかがわかるので、次の日に同じ場所に注射するのを避けるのに役立ちます。

●ボックスゾゴ フレンズ「わたしのきろく」の使い方

「わたしのきろく」の画面

ボックスゾゴ フレンズにログイン



マイページから「わたしのきろく」に移動

または、登録したメールアドレスに毎日届く「『注射のお時間です』メール」から直接「わたしのきろく」に移動することもできます。

「わたしのきろく」で、その日の注射部位と注射した時刻をタップして入力します。すると「おくすりカレンダー」にその日の記録が残りますので、後で振り返ることができます。

※なお、ボックスゾゴ フレンズの利用を始める際には、利用規約にご同意のうえ、会員登録してください。



ボックスゾゴ フレンズ

<https://voxzogo-friends.jp>



ボックスゾゴ®の副作用

ボックスゾゴ®の投与により以下のような副作用があらわれることがあります。

注射部位反応

注射した部位(主に皮膚)に以下のような症状があらわれることがあります。

・赤み ・腫れ ・じんましん蕁麻疹 ・内出血 ・しこり ・発疹

おう吐

低血圧

血圧低下に伴って、めまい、吐き気、疲労、失神寸前しっしんすんぜんの状態、失神などがあらわれることがあります。

ボックスゾゴ®を投与後に上記の症状や、いつもと違う症状があらわれた場合には、速やかに医療従事者に連絡してください。



ボックスゾゴ® 投与後の注意点



■ 投与後にあらわれる注射部位反応について

- ・投与後は、注射した部位に何か変化がないかよく観察してください。
- ・注射した部位を掻いたり、揉んだり、こすったり、過度に触ったりしないでください。
- ・注射部位に起こる反応の多くは数日～1週間程度で自然になります。症状が強い場合には、担当医にご相談ください。

■ 投与後に血圧低下の兆候があらわれたときは？

- ・投与後は、お子さんにめまい、吐き気、疲労、失神^{しっしん}など、血圧低下の兆候がないか観察してください。
- ・投与後に血圧低下の兆候があらわれた場合には、担当医または医療従事者に速やかに連絡してください。そのうえで、お子さんを寝かせて、足を頭より高くした状態にします。
- ・投与後には血圧低下があらわれることがあるので、高い所での作業、自動車の運転などの危険を伴う作業を行う際は注意してください。

ボックスゾゴ®を投与後にいつもと違う症状があらわれた場合には、速やかに医療従事者に連絡してください。



投与についてのよくある質問

■ ボックスゾゴ®を注射し忘れたら？

注射し忘れるのを防ぐために、ボックスゾゴ®は毎日同じ時間帯に注射するようにしてください。

注射し忘れたときは、次の注射までの時間が12時間以上であれば、気づいた時点で注射してください。その後はあらかじめ決めておいた時間帯に注射してください。

次の注射までの時間が12時間より短いようであれば、注射しないで、次のあらかじめ決めておいた時間帯に注射してください(2回分まとめて投与しないでください)。

■ バイアルや器具を壊してしまったら？

壊れてしまったバイアルや器具は使用せず、新しい薬剤と器具を使用してください。次の受診日までに投与する薬剤や器具が足りなくなるようであれば医療機関にご連絡ください。

■ 投与量を間違えたら？

間違えて投与してしまった量を記録し、担当医や医療機関に連絡し、指示に従ってください。

■ 注射前に体調が悪くても注射できますか？

お子さんの体調不良の程度が重い場合には、担当医や医療機関に相談してください。

■ 薬剤ボックスを冷蔵庫で保管できないときは？

薬剤ボックスを冷蔵庫で保管できない場合や注射するために室温に戻した場合は、冷蔵庫に戻さず、室温で保管して3ヵ月以内に使用してください。





ボックスゾゴ フレンズのご案内



ボックスゾゴ フレンズでは、ボックスゾゴ®を処方された軟骨無形成症の患者さんにご家族に、ボックスゾゴ®の自己注射を始めていただき、毎日続けていただくための情報やサポートツールをご提供しています。



ボックスゾゴ フレンズにあるコンテンツとサポートツール

コンテンツ

- ボックスゾゴ®の働き
- ボックスゾゴ®自己注射
- 軟骨無形成症
- お役立ち情報

サポートツール

- 自己注射ムービー
- 「注射のお時間です」メール
- わたしのきろく
- おくすりカレンダー
- 成長曲線

ボックスゾゴ フレンズ

<https://voxzogo-friends.jp>



※ボックスゾゴ フレンズの利用を始める際には、利用規約にご同意のうえ、会員登録していただく必要があります。



ボックスゾゴ®による治療を受ける患者さん向けに
サポートプログラムをご提供しています。

ボックスゾゴ フレンズ

<https://voxzogo-friends.jp>



B:OMARIN®

BioMarin Pharmaceutical Japan 株式会社

施設名

あなたの氏名